



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

念仏者は無碍の一道

亡き人は還相の菩薩として働いて下さる

六月は一年の丁度中間点、皆さま無事お過ごしでしょうか？知人、法友の中にも思いがけぬことがあることを「大乘歌壇」(五月号)から知り、驚きました。

「わが足をながめながめて撫でてみる足さま痛がる骨など折れて」という短歌。詠まれたのは広島県にお住いのTさん、十数年以上の法友です。二月から三月の投稿分ですから、今頃は多分快復されていることだろうと思いつつ、早速お見舞状を書きました。

足の骨折ですから、動くことはままならず、落胆して愚痴の虜になっても不思議ではありません。それにもかかわらず、「足さま」などと敬語をつけて拝むかのごとき詩心に感心させられます。「念仏者は無碍の一道なり(何物にも妨げられない道を歩むことができる)」と親鸞さまが言われる通り、愚痴の世界に溺れず、柔軟な心で苦痛を引き受けて乗り越えていて下さるよう、あなたは念仏者の鑑のようです、と敬服の念をお便りさせて頂きました。



元総代Iさんの遺稿ノートを拝読しつつも、「念仏者は無碍の一道」の味わい深い詩心があります。

「両親の五十回忌無事終える 次
の法会(ほうえ)は己が初七日」。三年前のもですが、往生の日が近いことを淡々と詠まれました。三十八歳の時、相次いで両親を亡くし、弟や妹さんの拳式、分家は長兄のこの方が親代わりをされました。保護司として長くご奉仕され、米寿の年に叙勲の榮譽に浴された時には、「米寿にて予期せぬ叙勲拝受せりあ有難や南無阿弥陀仏」と素直に喜びを表されました。それと共に、自らの胸中を「愚痴さんの横に顔出すお蔭さん」とさりげなく詠む詩心が、聴聞に勤しむ中で培われたことを忘れることができません。そして、最晩年の「他人事が我が事となる浮世かな」と「人生の終着駅に來たけれど迎えの車未だ來たらず」の詠歌は満中陰法要の際、親せき縁者の手で立派な板彫りの遺歌としてお供

☆行事ご案内

三重組仏教講習会(三日目、善正寺)

6月16日(土) 午前10時、午後1時

講師：北島晃融先生(中央仏教学院元院長)

夏の安居(あんご)の三重組版として70年の歴史をもつ、3日連続の仏教講習会、最終日が善正寺に巡ってきました。どうぞこぞってお参り下さい。

◇一縁会テレホン法話 Ⅷ 059-354-1454

5/21からは善正寺住職、5/28からは坊守、6/4からは若院、夫々一週間交替で善正寺ファミリーが担当。是非一度お電話を。3分で聞ける法話です。

◇絵手紙教室 6月12日(火)午前10時 33回目川崎光子先生 庫裏食堂で。作品は小杉郵便局にも展示

◇キッズサンガ6月2日(土)午後4時。鐘撞きは毎日夕方5時、

◇三重組仏教講習会三日目、善正寺が会所！世話方様、行事様お手伝いよろしく！昼食用意。6/14正念寺様(菟野)、6/15西願寺様(塩浜)6/16善正寺(小杉)10年一度の仏縁

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧。毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸9年10か月で26万7千訪問、一日平均80人程、悩み相談、大歓迎！即返信

◇新納骨堂：後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事の場所でお困りの方；本堂使用可。寺にご相談下さい。

写真アラカルト

降誕会、初参り



えされました。無碍の一道を遂げられた故人は、縁ある人々の心に還相回向(げんそうえこう) (往生成仏の人は再びこの世に還り來て有縁を救おうと働きかけて下さる)の菩薩様として私たちの所で働きかけて下さっているのだ、と味わせて頂きました。



坊守スケッチ ファミレス時代



ファミレス時代とは、バブル期のファミリーストラップが大盛況した時代の話ではない。評論家の樋口恵子氏の造語だが、ファミリー(家族)が少ない(レス)社会の事を表現した。周囲を見回すと、家族を持たない單身帯か高齢者夫婦が多い。いわゆる独居老人、未婚の一人様、高齢者夫婦。やがてそこは空き家になるだろう。

平成は後一年足らずで終わるが、この時代は少子高齢化が顕著になった。思えば私が介護に携わっていた平成10年頃から介護保険が開始。離れて住む一人暮らしの母が、デイサービスを利用してできるようになって大変有難く思った。しかしそれが今では当たり前のようになり、介護そのものが家族の手から離れ、社会全体に委ねられるようになった。家族がバラバラに住む時代には当然の成り行きかもしれないが、親の介護はもはや家族だけでは不可能になった。老親の望む如何に関わらず、家族力の衰退に一層の拍車がかかった。

いわゆる50-80問題(50代の子供が80代の親の介護で仕事を辞めざるを得ない)深刻な事態も発生。高齢者の心配はそれだけではない。平均寿命も大幅に伸びて100歳を迎える人も珍しくない。「実はそんなに長生きしたくないのよ。老後資金が不安。子供に迷惑かけ

たくない」という声をよく聞く。離れて住む残された家族に、果たして何を残そうと言うのだろうか?

老いの道、たとえ不安で孤独でも、そこに自分の生きる意味を見出せば、生きる値打ちがあるのではないか? 老いてみなければ分からない人生観を、後に続く人には是非教えて欲しい。

「来年もこの花が見られるかしら? だから無心に咲く花が愛おしく生きる希望をもらえるわ」と言う高齢の独居女性の凛とした生き方にハッとしました。私はファミレス時代を「おかげさま」と寿命一杯に生き切るお手本を見せて頂いたような気がする。

◇元門徒総代伊崎栄一氏のご遺族から、故人が長年書き溜めた仏法の味わいノート二冊を寄贈して頂きました。今後少しずつ紹介させて頂きます。

寄稿

四日市市・釋清風

登園の足取り重し菜種梅雨
白き花訪へば慕情の風薫る
登校の声高らかに薄暑かな
鐘つきの子ら合掌す西日かな
雨の池大合唱や牛蛙



☆寺院夫婦の『青自な毎日』その42

四月末、長男の小学校の家庭訪問がありました。長男は帰宅後すぐに宿題を済ませてソワソワと落ち着かない様子。予定時刻が近付くと、窓の外を眺めては「遅いなあ」と言っていて、ウロウロ。先生が到着された時には、恥ずかしがって逃げていく始末。

担任の先生は、教職三年目の若い男性。スノーボードや水泳が得意なスポーツマン。子供と一緒に走り回る明るい先生で、生徒の名前を「〇〇さん」と親しみやすく呼んで下さいます。

「学校ではいつも元気に過していただきますよ」とのお言葉に親として安心しました。どうやらお寺の書道教室に来る子や、夕方の鐘つきに来る子等、いっぱい顔なじみの子がいるので学校は楽しいそうです。また幼稚園とは違って割と自由に時間を使えるので伸び伸びできるようです。心配していた学校までの道のりも、朝は十人ほどの集団登校、帰りは見守り隊の方とお喋りしているうちに到着します。くれぐれも交通事故には気を付けてもらいたいです。私も五月末の朝には、旗当番で子供の安全な登校に協力します。

家庭訪問の後半時間には、長男が庫裏へ先生を案内して、祖父母と対面。さらに大好きな『明日に向かかって』という仏教讃歌まで家族と一緒に歌って頂き、何と賑やかな家庭だと思われたのではないのでしょうか? 家庭訪問は、先生が生活環境や家族を知って

頂き、子供への理解を深めてもらう絶好の機会だと思えました。(若坊守)

ホットニュース

◇4/21の初参式には6名の赤ちゃん幼児が受式。名古屋・員弁の遠方からの参加もあり。また以前善正寺で練習していた頃、三重組コーラスの男性と女性の夫々の孫さん同士が結婚され、ひ孫さんが誕生。四世代を結ぶ不思議な仏縁に驚きました。「宿縁を慶ぶ」とはこのことですね。感謝。

◇新年度の門信徒会長に服部徹次様、会計に伊崎司郎様が選任されました。

善正寺・平成30年度今後の主な行事

- ※5月20日(日) 午前「善正寺総会」
- ※6月16日(土) 午前・午後「三重組仏教講習会」北畠晃融師・善正寺於
- ※8月15日(水) 午前8時半「孟蘭盆会(うらぼんえ) 法要」善正寺本堂
- ※8月18(土) 19(日)「秋季永代経」(加藤正人先生、桑名)
- ※9月23日午前・午後「小杉町追悼法要」(光念寺様於)
- ※11月2日・3日「報恩講」守快信先生(滋賀) 2日11時お非時あり
- ※11月23日午前「秋勧進」
- ※12月1日(土) 午前お内仏報恩講

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」294号をお届けします。◇骨折の痛みを詠まれたTさんと我が胸中を「愚痴さん」と詠まれたIさん。共通点は柔軟な心で苦悩を引き受けて歩む姿。仏法の醍醐味ですね。

昔の田植は梅雨の頃と決まっていたが、現在は早まりGW前に終える家が殆どです。市街地に田んぼを所有する友人が「私は田植えが大嫌い、他の家はササとマシンや駐車場に転換したのに、我が家は田んぼを持ち続け、GW中は一家総出の田植え。おまけに新しく農機具を買ったので、この先10年は田植えをしなければ元を取れないわ、それまで田んぼで働き続けるなんて絶対無理、体が持たないわ」と嘆いていました。「でも生涯定年もない永久の職場って有難いじゃない」と田植えの苦労を知らない私は暢気な返答。この会話からお釈迦様が説かれた仏説無量寿経の一節を思い出しました。「田んぼが有れば田んぼの心配をし、家が有れば家の心配をする。また田んぼが無ければ田んぼが欲しいと憂い、家が有れば憂い、家が無ければ家が欲しいと憂う。つまり人間はどんな状況にあつても憂うる存在、ないものねだり」をして逆の立場を羨ましがります。それではいつまで経っても幸せや喜びは感じられません。自分の置かれた場所で与えられた仕事を精一杯励むならば、必ず道が開けます。坊守の仕事も比喩のものにならない位、不自由で気苦勞は多いものですが、坊守だからこそ味わえなかつた素晴らしい出会いがあります。この歳になつてようやくその有難さが分かりかけてきました。この喜びを若坊守にも伝えていきます。さて6月16日(土)午前・午後三重組仏教講習会が善正寺であります。十年に一度巡ってくる尊い法座、皆様お誘い合わせてご参詣下さいませ。合掌

平成三十年六月

善正寺坊守 拝